

チーム力の向上を目指して

ほげい船原稿 平成 24 年 10 月

高知病院は平成 12 年 10 月 1 日に開院し、今年 12 周年を迎え、10 月 6 日に記念の院内発表会が開催されます。準備期間が短かったにもかかわらず、多職種からレベルの高い多くの演題が集まっており病院の医療の質が上がってきていることを実感しております。

9 月に中国四国ブロックの病院による会議があり、人材育成というテーマで意見交換が行われました。中国四国の地域も対象疾患も異なる病院の集まりで個々の病院が抱える問題も様々でしたが、一致していたのは、どのように必要な人材を確保し育成していくかということでした。いろいろな意見はありましたが、基本は良質な医療を行い選ばれる病院になり、職員がやりがいをもてる病院になることが最も重要なことではないかと思えます。

これには、事務職から医師にいたる病院職員一人一人が全力で病院の改革に取り組むことが重要ですが、個人が単独で取り組むのではなく協力しながら進めていくことが必要です。つまり、チームとして取り組んでいくことが大きな発展につながると言えます。今年はオリンピック、パラリンピック年でロンドンからの日本選手の活躍の報告に皆さんも感動したのではないのでしょうか。今回のオリンピックは団体でのメダル獲得が多かったように思います。まさに、チーム一丸となって勝ち得た勝利といえるのではないのでしょうか。

しかし、印象に残ったのは背泳の入江選手がメダルを取った後のインタビューで「競泳は 8 日間において、27 人で一つのリレーをしているようなもので最後の男子リレーの自由形の選手がタッチするまで 27 人の選手のリレーは終わらないです」というコメントでした。この時の彼の発言は競泳に参加した 27 人は一つのチームであることを強調していたように感じます。水泳の競技はリレーを除くと基本的には個人競技といえると思います。コメンテーターによると、前のオリンピックの時には有力選手がいたにも関わらず選手間の団結力が弱く成績も期待に添えなかったそうで、今回の水泳陣の成績はまさにチーム力であったといえるようです。

このことは病院にも当てはまるのではないかと思います。病院はそれぞれの職種が資格を有する専門集団で、取り組む仕事内容は多くは独立しているように見えますが、現在は各職種間で連携することが推進され、つながりをより強固なものにすることで診療の質が向上することは間違いありません。9 月 1 日に、高知県、徳島県を中心に大規模な防災訓練が行われ、当院でも土曜日にもかかわらずたくさんの職員や看護学生がボランティアとして参加し実践形式で実施されました。各職種が分担し効率よい訓練となり、不十分な点も多々ありましたが中央から派遣されていた指導医から高い評価をいただきました。高知病院の「チーム力」を発揮できたのではないかと思います。「チーム力」を上げていくためには、各職種間のつながりが大切なことは当然ですが、それにはお互いの意見を尊重できる職員関係の構築が重要で個々の職員の意識の変革も必要な点と考えます。

国立病院機構も独法から離れて新しい組織に変わっていくようですが、このような状況においては職員一人一人が高知病院のチームの一員としての自覚を持つことが要求されると思います。職員の皆さん、「チーム力」を向上させ高知病院が新しい組織においても存在感を発揮できるすばらしい病院になるよう頑張っていきましょう。